

国立母子保健センター（以下、NMCHC）では現在、JICA無償資金協力により施設拡張工事が行われています。間もなく工事が完了し11月末には正式な開所式がとり行われる予定です。この協力により、病棟、新生児治療室、集中治療室等が改修され、事務部や国家プログラムオフィスを含む研修センターが新築されました。本プロジェクトの拠点オフィスも研修センターの一角に移転し、先月初めに本格的に新オフィスでの業務を開始しました。研修センターは、さっそく様々な母子保健関連研修に利用されています。プロジェクトでは、先月末に第1回 Joint Coordination Committee (JCC)会議を開催しました。実施場所は、新研修センターの大会議室。新しい建物で有意義なディスカッションを行いました。

Joint Coordination Committee (JCC:合同調整委員会) 会議とは？

JCCは、相手国側プロジェクト実施機関の関係者、日本側ではプロジェクト長期派遣専門家、JICA現地事務所長などで構成される技術協力プロジェクトにおける最上位の意思決定機関です。JCC会議はJCCメンバーや主要関係者が一堂に集い、プロジェクトに関する方針、活動計画、成果等、協議・決定する会議です。通常、年に1回から半年に1回の頻度で開催されます。

JCC会議報告

出席者

- カンボジア側：保健省早期必須新生児ケアコーディネーター、NMCHCセンター長、副院長、新生児室、産科、研修部関係者、コンボンチャム/スバイリエン州保健局長、母子保健課長、国立小児病院、クンタボッパ小児病院、カルメット病院 等
- 日本側：プロジェクト専門家、JICA現地事務所長/事業担当
- その他：WHO、GIZ、UNICEF、UNFPA、URC

議題

- プロジェクトの目的、アウトラインの説明
- 対象2州（コンボンチャム州、スバイリエン州）での分娩時・新生児ケアの課題、優先的活動の計画の共有
※8,9月に実施した各州の活動計画ワークショップの結果報告。
詳細はニュースレター-第2号を参照。 (<https://www.jica.go.jp/project/cambodia/021/newsletter/index.html>)
- フリーディスカッション
- プロジェクトのクメール語名称とロゴデザインの投票

今回のJCCでは、上記議題の2.「対象2州（コンボンチャム州、スバイリエン州）での分娩時・新生児ケアの課題、優先的活動の計画」がプロジェクト関係者間で共有されることが主眼点でした。今回、2州の課題を皆で共有したことは、今後地方でのプロジェクトの活動展開において、様々な組織、特に中央レベルからの協力を得る基盤づくりの一助になったと考えます。2州からの報告を受け、プロジェクト関係者がそれぞれの視点により「何が今必要か」という様々な意見が述べられました。

例えば、下記の点についての意見が多く出されました。

- 新生児レファラル・システム（患者搬送体制）の強化。とくに遠方地域の保健センターや郡病院からの搬送の場合、搬送前、搬送中に新生児治療の対応ができる医療機材・スタッフが揃っていないことが課題。助産師等に対しても研修が必要。
- 産科と小児科（新生児科）との連携強化。ソフト面での連携はもちろん、それぞれの科の物理的距離を近くするべき。
- 新生児退院後のコミュニティレベルでのフォローアップ体制の強化。コミュニティにおける新生児死亡、新生児治療にアクセスできていない病児の把握がもっと必要。

また、プロジェクト1年目では、①プロジェクトのアウトプット指標に対するベースライン調査の実施、②プロジェクトの活動内容への具体的提案、支援を行う短期専門家派遣（新生児ケア、分娩時ケア、母乳育児支援、IEC、母子保健情報システム等）、③②での提案や対象2州が立案した優先的活動の計画にアラインした活動（各種研修、レビュー会議、現場へのスーパービジョン等）の実施 の3本を柱にして展開していくことを共有し、合意を得ました。



無償資金協力で新築された研修センターの大会議室にて。



正面左からJICAカンボジア事務所長、NMCHCセンター長、スバイリエン州保健局長



ディスカッションの様子。



プロジェクト名称（クメール語）、ロゴデザインの投票の様子。

※投票で決定したロゴデザインを現在加工中です。ロゴが最終化され次第、ニュースレターにて正式発表します！